

子どもが
育てにくい

育児がうまく
いかない

と思ったことはありませんか？





「みんなといっしょに」が難しいお子さんたち

●お子さんはもうすぐ小学生。

小学校では『みんなといっしょに決められた時間内に決められた行動』をする機会がとて多くなります。

でもね、すべてのお子さんが6歳になったからといって、みんなといっしょに時間割どおりの行動ができるわけではありません。

●まじめで一生懸命やっているのに、先生の言うことがわからなかったり、先生の言うとおりに動けなかったりで、集団行動になると目立ってしまうお子さんがいます。

数字や漢字には強いのに、ひどく不器用で、片づけや着替えに手間取ったり、体操や楽器演奏がうまくできないお子さんがいます。

そういうお子さんは、誰でもできると思われていることがうまくできなくて、自分に自信をなくしたり、先生や友達にふざけていると誤解されて悲しい思いをすることがとても多いのです。

6年間、毎日通う学校では、友達や先生にお子さんのよさを認めてほしいし、いろいろなことを学んで健やかに成長してほしいですね。

●お子さんが楽しい学校生活を送るために必要なこと。それは「お子さんの個性」を理解し「お子さんのペース」に合わせた教育ができる環境です。

あなたのお子さんに合った学校・学級を選択するためにはどうすればいいのか。いっしょに考えましょう。



お子さんに合った学校・学級を見つけてください

1 通常学級

国公立・私立の小学校の通常学級です。年齢に応じた学習計画が決まっており、**集団生活が中心**になります。特別支援教育の制度化により、通常学級でも個別の支援計画を立てて取り組むことは可能ですが、あくまでも**集団生活の範囲内**での支援に限られます。そのため学校生活とは別に、**ご家庭においてお子さんの発達を支援する取り組みが必要**になります。

通級指導教室 通常学級に在籍しながら、必要に応じて月・週に数回、指導教室で個別に支援を受け、苦手なところをフォローします。

2 特別支援学級 等

集団教育をしていく上で、**特別な配慮を必要とするお子さんが対象となる学級**です。**地域の学校の中**にあり、名前や運営の仕方は学校ごとに特色があります。すべての学校に設置しているわけではありません。

交流学級 特別支援学級に在籍しながら、お子さんの状態に合わせて、通常学級と特別支援学級で授業を受けて生活します。

3 特別支援学校 (旧称：養護学校 等)

視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱・知的障害のあるお子さんたちが対象となる学校です。基本的にその子どものできる力を伸ばすために、保護者のニーズも聞きながら個別の教育支援計画を立て、多くの担当教員によってきめ細かな教育がされます。地域の教育委員会と相談の上、入学を決定します。全国に900校近くあります。

お子さん合った学校はどれ?

集団生活中心の教育なら

- 国公立・私立小学校の**通常学級** or **通級指導教室**

お子さんが集団生活についていけるように、学習や身辺自立など、ご家庭でフォローする必要があります。

子どもの発達を丁寧に見るなら

- 地域の小学校の**特別支援学級**
- 特別支援学校**

少人数制でお子さんのペース&能力にあった、きめ細かな教育や支援がなされます。

ひとことコラム

わが子には特別な支援が必要かもしれない。でも、みんなと違うのはイヤ、みんなといっしょに通常学級に行かせたい…こんなふうに「みんなといっしょ」ということにこだわる保護者の方はいっぱいいます。

そうやって保護者の方がこだわった結果、当事者であるお子

さんを苦しめてしまうことも少なくありません。

だから、同じこだわるなら、お子さんの未来にしませんか？社会に出て働きながら、友人を作り、休日には趣味を楽しむ幸せな、ごく普通の未来。

そのためには「今どんな教育が必要なのか」を考えましょう。

😊 就学前のチェックポイント!

Point.1 自分でトイレに行けますか?

学校では授業中にトイレに行かなくてもいいように、自分で考えながら休み時間にトイレに行きます。



Point.2 自分で着替えができますか?

体育や身体測定やプールなど、自分で服を着替える機会がたくさんあります。服の裏表や、後ろなど、理解できていますか?



Point.3 フォークや箸を使って食事ができますか?

給食は主にフォークと箸を使って食べます。また、給食の準備も、上級生に手伝ってもらいながら、自分たちで配膳を行います。



Point.4 名前を呼ばれて反応しますか?

小学校ではクラスの人数が、一番多い場合は40人にもなります。ひとりの時だけでなく、まわりに人がいる時でも、名前を呼ばれたら答えてくれますか?



Point.5 自分と他の子のももの区別ができますか?

文房具や教科書の他に、お道具箱など、自分で管理しなければならない持ち物が、とてもたくさんになります。



Point.6 自分の名前がひらがなで書けますか?

名前の他に丸や三角を描くことができますか? 鉛筆を使って紙に文字を書くということが、学習の基本になります。



他にも

- ・ハサミなどの手先を使う道具を使えますか?
- ・帽子やカバンなどを指定された場所に自分で置くことができますか?
- ・ボール遊びや縄跳びなど極端に苦手な運動はありませんか?



お子さんの就学先について、「不安に思うこと・相談したいこと」があったり、「わからないこと・疑問に思うこと」がある場合、以下のところにご連絡下さい。

発達障害者支援センター

各県ごとにひとつずつあり、発達障害を中心とした情報を統括しています。お子さんの状態によって、お子さんにあった学校などの助言などをしてくれます。

教育委員会

都道府県レベルと市町村レベルと二つの枠組みで存在します。就学相談については市町村の教育委員会に相談します。

子どもの発達支援機関

実際にお子さんを療育する場所・組織であり、地域や役割に応じて名称が異なります。主に保健センターや子育て支援センターから紹介されます。

※これらは地域によって名称が異なることがありますが、具体的な連絡先はお住まいの地域の役所にお問い合わせ下さい。



特別な支援がほしい場合の就学までの流れ

保護者が積極的に動かない限り、10月頃に行われる「就学時検診」が小学校との最初の接点になります。ですが、お子さんの教育に特別な支援がほしい場合は、できるだけ早く、園や学校や教育委員会などに相談してください。以下の図は「就学までの流れ」の一例です。(これらは市町村によって違います)

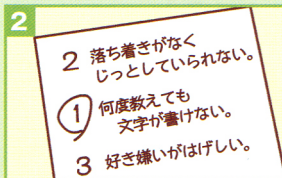
在園の保育園や幼稚園で子どもの姿について確認	園で実際の生活を見せてもらったり、先生や保育士に就学先について相談してみましょう。
園から就学可能な学校に連絡を取ってもらい、見学・相談	春から夏にかけて教育相談所、教育センター等で就学相談が行われますので、それに参加してみてもいいでしょう。
学校の見学	自分のお子さんがここで楽しい生活が送れるか、全体の雰囲気をつかんできましょう。心配なことはメモして質問しましょう。
市町村の教育委員会に相談 就学時検診（10月頃）※これらの順は逆になる場合もあります。	就学時検診では、翌年四月に就学を迎える子どもに対して入学予定の小学校で健康診断や簡単な知能検査を行います。
入学希望の学校と打ち合わせ ※教育委員会が窓口になる場合もあります。	お子さんが困る場面を具体的に伝え、具体的な支援をお願いします。お願いしたことがすべて叶うわけではありませんが、学校と調整しながらお子さんが楽しい生活を送れるように話し合います。

どのような就学先を選択するにしても、まず、家族の中で希望をまとめてみましょう。就学相談は就学先が決定されるまで継続して行われますが、すべての問題がスムーズに解決するとは限りません。お子さんにとってどうするのが一番いいのか考えながら、相手としっかり話し合しましょう。

相談の時
慌てないように
混乱しないように
するには？



1 困っていること・相談したいことを箇条書きにする。



2 落ち着きがなくじっとしてられない。
① 何度教えても文字が書けない。
3 好き嫌いがはっきりしている。
相談したい事に優先順位をつける。



3 はっきりとした言葉でできるだけ簡潔に話す。

楽しい子育ての作り方

本格的な集団生活がいよいよ始まります。子どもたちの中には「普通、これくらいわかるでしょ？」というルールがわからないお子さんがいます。時間割はチャイムによって区切られているとか、授業中は席を立たないとか、係りの活動があることなど、あたりまえのルールが理解できないために、本人に全く悪気はない

のに集団生活を乱してしまうことがあるのです。もし、あなたのお子さんがそうだった場合、何が分かっていて何を教えていけばいいのか、まわりがどう伝えれば本人が納得できるのかを、担任や保健室の先生など複数の先生方と一緒に考えましょう。わかればできる、練習すればきちんとできるお子さんなのです。

JDDネット (日本発達障害ネットワーク) <http://jddnet.jp/index.php> E-MAIL:office@jddnet.jp

※「日本発達障害ネットワーク」は、「日本自閉症協会」「アスペ・エルデの会」「えじそんくらぶ」「EDGE」「全国LD親の会」の5団体を発起団体として、2005年12月3日に発足しました。現在、発達障害関係の全国団体・地方団体や発達障害関係の学会・研究会、職能団体なども含めた60団体が入。幅広いネットワークを目指しています。

■発行日 2008年3月20日
■発行元 JDD ネット(日本発達障害ネットワーク)
JDD ネット事務局 〒105-0013 東京都港区浜松町1-20-2 村瀬ビル3階
TEL 03-6240-0674 FAX 03-6240-0671
■編集 特定非営利活動法人 アスペ・エルデの会
■監修 辻井正次(発達臨床心理学者/特定非営利活動法人アスペ・エルデの会 統括ディレクター)
本リーフレットは[平成19年度障害者自立支援調査研究プロジェクト]の助成を受けて作成しました。